

小・中学校に分かれ、それぞれの会場で全体会とグループ協議が行われ、教員同士の情報共有や活発な意見が出されました。

【小学校】（会場：サーラ音楽ホール 多目的室）

数年ぶりに全体で浜松市歌の斉唱を行い、先生方の素敵な歌声が会場に響いてのスタートとなりました。

まず、佐鳴台小学校の平澤紀子先生から、昨年度視察された埼玉県戸田市の学校のお話を伺いました。魅力溢れる音楽室の環境づくりや、歌唱教材「とんび」の授業から、効果的な発問や歌唱指導について教えていただきました。また、書籍を出版されている小梨貴弘先生の ICT を活用した音楽科の授業づくりについて紹介していただきました。ご紹介いただいた取り



組みを参考に、ICT を活用しながら音楽の本質の目的を捉えた授業づくりを実践していきたいと思えます。

次に、グループに分かれ、音楽主任としての役割や音楽実践、課題等を話し合いました。日常の指導方法から音楽室の環境整備など、経験年数問わず幅広い意見が出されていました。音楽に触れあう機会の場が近年減っていることから学校独自に工夫している点やデジタル教科書を中心としたICTの使い方について紹介し合い、先生同士の情報を共有できる良い機会となりました。



【中学校】（会場：江西中学校 体育館）

江西中学校にて、北浜中学校松田紀子先生より「音楽科における指導と評価の一体化に向けた実践」についてご紹介いただきました。松田先生より、オペラ「アイダ」の見どころ、聴かせどころをまとめた実際の生徒のレポートや、聴き手に伝えたいことをまとめたワークシートを提供していただき、それらをもとに各グループで生徒の姿を思い浮かべながら、評価について議論しました。



普段各校に1～2人しかいない音楽科同士が集まり、生徒の学びに対する見取り方について議論することで、新しい視点を得られるだけでなく、評価方法の具体的な取り組みについて確認し合うことができました。また、松田先生より生徒の姿について丁寧に教えていただいたことで、レポートをま



とめるまでの知識の結びつきや、思考の流れが分かり、「主体的に学習に取り組む態度」の観点についても考えを深めることができました。「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」は相互に支え合い、関連し合いつつも、異なる観点から生徒の学力を分析的に評価しなくてははいけません。学びの変容の見取り方について議論することで、私たち教員の日々の生徒への関わり方や授業での指導についても改めて考えることができました。